

学校教育 目標	夢に向かって、学び合い、認め合い、鍛え合い、主体的に生きる子どもの育成
育成を目指す 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な力を確実に身につける子ども ・身につけた力をいかし、自分で考え、判断したり表現したりする子ども ・自分から進んで学び、粘り強く挑戦する子ども

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年全体の平均正答率では、どの教科も概ね学習内容の定着ができていいる。しかし、個人差がある。 ○学習内容と日常生活の中にある現象との関係性がつなげていない。 ○段落数や文字数、使う言葉などの条件にそった文章を、書けない子どもが多い。 	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲や理解、学習することの必要性等について、肯定的にとらえている子どもが多いが個人差がある。 ○習熟度別や個別の指導を工夫し、より一層意欲的に、また「わかる」喜びを実感できるように授業や学習活動を行うことが必要。
	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日記や意見を書く取組を続けていることで、文章を書くことへの抵抗感は減ってきている。 ○知識・技能の観点では、スモールステップや習熟度別、個別の指導に加え、高学年では教科担任制をとり入れたことで定着が図られている。 ○算数の文章問題では、線分図や数直線を立式の際の根拠として、系統的に利用できるように指導していることが、日々の授業で生かされている。 	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業のなかで、考えを伝え合う活動では、新型コロナウイルス感染症予防のため、通常のようなペア学習やグループ学習が行えなかった。 ○低学年では、教材教具を工夫し、時間・単位などを実感や量感が伴えるように指導を行った。 ○高学年では、教科担任制を導入し、教材研究を深め、指導方法を改善しながら、効果的な指導ができるようにした。 ○習熟度別指導を行い、基礎基本の定着を図った。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習では、ドリル学習だけでなく思考力をはぐくむ学習が行えるとともに、学年×10+10分の学習ができるように内容を工夫している。中学年以上では、自主学習の内容が充実するように学年に応じた指導を行っている。 ○休み時間の図書室利用が、通常に比べ制限があるが、図書室の利用を積極的に取り入れ、読書量の向上と発達の段階に合った質の向上を指導している。 	

学力に関する達成指標

国語・算数の「思考」で80点以上の達成者数を8割以上にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもが「わかる」「できる」と思う授業 ○進んで考えを伝えあう子どもの育成 	
	<p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの声から「課題」を設定するなど工夫し、子どもたちが意欲的に自分の考えを書く場を設定する。 ○学びあいの手立てを工夫し、子どもたちが進んで考えを伝えあう場を設定する。 	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロール ・家庭学習
	<p>〈取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時間、子どもの声から「課題」を設定するなど工夫し、子どもたちが意欲的に自分の考えを書く場を設定する。 ○各時間、学びあいの手立て(ノート交換、付箋、ICT機器の利用)を工夫し、子どもたちが進んで考えを伝えあう場を設定する。 ○週に一回は、字数や段落数、漢字を○文字以上使うなどの条件を付けた書く活動を設定する。 ○各種学力調査や単元末評価テスト、学期ごとの学校アンケート→学年部、学力向上担当を中心に集計し、全体に周知するとともに各部会で取組の見直しを行う。 ・3週に1回の各部会で、指導の改善点を明らかにしていく。 	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日の声かけ ・毎日決められた時間(学年×10分+10分)、家庭学習に取り組んでいる子どもを70%以上にする。 ・メディアコントロールを行い、生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が定着している子どもを80%以上にする。
	<p>〈検証指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数の単元末評価テスト「思考」で80点以上の達成者数を80%以上にする。 ・授業、学習内容が「わかる」「できる」と思う子どもをA70%以上にする。 ・課題や学びあいの手立てを工夫し、進んで考えを伝えあうことができた子どもをA70%以上にする。 	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>学期ごとに学校運営協議会で、アンケート結果をもとに検証</p>
<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○9年間を見通した家庭学習の指導をすることによって、子どもたちが学年に応じた家庭学習時間を確保する。 ○校時表の見直しによる、放課後の時間を個別指導、補充指導にあてる。 ○図書館利用の方法を工夫し、読書の機会を確保する。 		